| 学域名 | 医薬保健学域 |
|----------|--------|
| 学類名 | 薬学類 |
| コース(専攻)名 | |

、 (UGS及び本学類が掲げる人材養成目標を踏まえ、以下に掲げる学修成果を達成した者に、学士(薬学)の学 位を授与する。 〇学修成果 (1) 倫理・使命・責任を自覚する。 医療人としての使命と責務を理解する。 高い倫理観をもつ。 回り、回答はほうできない。 ・ 基礎から臨床に至る生命薬学領域の専門的知識を身につける。 ・ 健康と疾病に関わる基礎知識を身につける。 薬物治療に起因する問題を同定・評価し解決する基礎的能力をもつ。 ・臨床現場における実践的な技能と態度を身につける。 ・臨床税場(しん)での美残的な技能で応及でダインリの。 (3) 専門性を活かした応用力をもつ。 ・主体的な自己研鑚により、身につけた専門的知識を実践レベルまで発展させることができる。 ・専門的知識を活用し、生命薬学・医療薬学領域の未解決な問題を抽出することができる。 ・抽出された生命薬学・医療薬学領域の未解決な問題について、解決を目指す応用力をもつ。 (4) 論理的な思考力と表現能力をもつ。 ・国際的な視点で情報の収集や分析を行うことができる。 ・自身の考えを明確にまとめることができる。 他者と論理的に議論することができる。 成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修するこ 薬学類では学位授与方針に掲げる学修成果を達成するため、以下のとおり教育課程を編成し、実施する。 ・が求められる科目) (1) 体系的・階層的なカリキュラム:薬学・創薬科学について,基本的な学問体系を理解するため,入学後3年前 C-薬学基礎 E-医療薬学 D−衛生 期までは、薬学類・創薬科学類で同一のカリキュラムに基づいて学修を進める。この期間は、共通教育科目の 他に、薬学・創薬科学の基礎となる学問領域の専門教育科目や、薬学に関係する英語科目、生命・職業倫理 薬 薬 薬 に関する科目などを履修する。2年前期には短期留学プログラムを履修できる。 不学と社 学 学研 臨 (2) 進路に応じたカリキュラム:一般入試で選抜された者は、3年前期が終了した時点において2つの学類いず 項 床 究 健康 薬理 物 質 化学 自然 生命 生体 環境 薬の 薬物 製剤 れかへの配属がなされる。3年後期からは薬学類に固有の専門教育科目を学ぶ。実務実習事前学習を履修 숲 し、共用試験に合格した後、実務実習を適して、実学としての医療薬学を学ぶ一方で、危属された各研究室等において卒業研究・卒業演習を履修することにより、基礎研究を基盤とする課題探求能力や問題解決能力を涵 明現象の 物質の 防 物理 生み 御と 田 病態 療に 休 のサ 養する。 医薬品を化学による理解 立ちと生体機 基礎 的性 分析 性質 出す 微生 体の 役立 運命 薬物治療 質 薬物 物 変化 一つ情報 と反応 ンス 前期 後期 授業科日名 学生の学習日標 Ω4 15001 医薬保健学基礎 I 薬学類及び創薬科学類で学ぶことの意味を 理解できる ・製薬企業での研究職-学術職-品質管理職-営業職やPMDA職員などの業務を知り、自分 のキャリア形成を考えることができる ・英語と日本語の語学力、プレゼンテイション 能力、及びコミュニケイション能力の重要性を 知り、それを養成するための方策を考えること 0 0 0 ができる 医薬保健学基礎 II ・薬学類及び創薬科学類で学ぶことの意味を 15002 理解できる 病院薬剤部と調剤薬局での薬剤師および健 康福祉施設職員などの業務を知り、また医学 類と保健学類でのキャリア形成を知り、自分の キャリア形成を考えることができる 0 0 0 我が国で起きた薬害の実体を知り、その防止 のための施策を考えることができる 薬学英語 I 18001 Students learn, recognize, comprehend, retain nd use English in pharmacies and 0 harmaceutical research settings. 18002 薬学英語Ⅱ Students learn, recognize, comprehend, retain and use English in pharmacies and 0 harmaceutical research settings. ・器官系および細胞の機能と構造について説 12002 生体の機能 明できる 神経系の機能と構造について説明できる。 ・骨格系の機能と構造について説明できる。 ・筋肉系の機能と構造について説明できる。 0 0 0 0 0 0 0 皮膚と感覚器系の機能と構造について説明 できる ・血液系の機能と構造について説明できる。 生体機能の調節機構について説明できる。 生体の構造 ·心臓血管系、消化器系、呼吸器系、内分泌 系、泌尿器系の構造と機能について説明でき ・リンパ系の構造と免疫応答について説明でき 0 0 0 エネルギー代謝と栄養、体温調節について説 明できる. 生殖器の構造と機能、人体の発生について 説明できる

ース(車攻)のディプロマ・ポリシ

| 学域名 | 医薬保健学域 | | | | | | | | |
|--------------|--------|--|--|--|--|--|--|--|--|
| 学類名 | 薬学類 | | | | | | | | |
| コース(専攻)名 | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| 半緒のご プロマーギルン | | | | | | | | | |

| | KUGS及で 位を授与 | | を成目標を踏まえ,以下に掲げる学修成果を達成 | した者 | に, 学士(す | 薬学)の学 | | | | | | | | | | | | | | | | | | / | 7 |
|---|---|---|--|---------------------|-------------------------|----------------------|--------|-----|----------|----------|------------|-----------|----------|-----------|----------|----------|------------|------------|----------|------------|----------|---------|-----------|-------|-------|
| 業等技工学を記与力計・関イ学等原度を並加すらか。以下のできた。 () 「大き地・海南が1000~1000~1000~1000~1000~1000~1000~100 | (1)・医・高(2)・基・健・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 使命・責任を自覚する。 としての使命と責務を理 里界ではいてのを 野臨床にといての金を 素原に関わる基礎知節で 素に起因するとは またにおかした。 またはおかした。 ははいしまり、命楽で はいは、 はいは、 はいは、 はいは、 はいは、 はいは、 はいは、 はいは、 はいは、 はいは、 はいは、 はいは、 はいは、 はいは、 はいは、 はいは、 はいは、 はいは、 はいる。 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 | 力をもつ。 領域の専門的知識を身につける。 身につける。 と・評価し解決する基礎的能力をもつ。 とと態度を身につける。 つっけた専門的知識を実践レベルまで発展させることが 領域の未解決な問題について、解決を目指す応、 もつ。 もつ。 とができる。 | バできる | D. | | | | | / | | / | / | / | | / | / | / | / | / | | | | | |
| (1) 体系的・展別的なカリトュラム、素子・競技科学について、基本的な学的体系と思索するため、入学能学的 関係では、素子等 観音学の温度とならの場所が同様です。 | | | | 程を# | 扁成し, 実施 | iする。 | 成果 | を上 | げるた | めに | 履修 | | | | | | | | | | | | | | |
| に関する自身は立と便等する。20年期間には原理学力のラムを開発できる。 | 期までは | ,薬学類・創薬科学類で | 同一のカリキュラムに基づいて学修を進める。こ | の期間 | は, 共通教 | 育科目の | A I | В | | | | | | | | | | | E-Œ | 療薬 | 学 | | | F # | G |
| 特別 | に関する (2) 進路(れかへの し, 共用記 において 養する。 | 科目などを履修する。24 に応じたカリキュラム:一 配属がなされる。3年後 式験に合格した後、実務 卒業研究・卒業演習を履 | 王前期には短期留学プログラムを履修できる。 般入試で選抜された者は、3年前期が終了した時期からは薬学類に固有の専門教育科目を学ぶ。 実習を通して、実学としての医療薬学を学ぶ一方 | き点にま 実務実 で, 配 | いて2つの 習事前学習 属された各 | 学類いず 習を履修 研究室等 | 本事項 | 学と社 | 1物質の物理的性 | 12化学物質の分 | — 3化学物質の性質 | 体分子・医薬品を化 | 5自然が生み出す | ― 6生命現象の基 | 体の成り立ちと生 | 8生体防御と微生 | 1 健 | 2 環 | 1薬の作用と体の | ― 2薬理・病態・薬 | 3薬物治療に役立 | 4薬の生体内運 | - 5製剤化のサイ | 学臨 | 薬学研究 |
| 2001 翻胞分子化学 | 時間割 | | 学生の学習目標 | 学年 | | | | | 貝 | | 反 | よる 理 | | | 機能の調 | 190 | | | | 治 | 情 | | ス | | |
| - 共鳴構造が集ける ・原子軌道と分子軌道について説明できる ・アルカルを命名するとができる ・シクロヘキサンのいす型配理が書ける ・総対配置を応期を用いて表すことができる ・ジタロペキサンのいす型配理が書ける ・総対配置を応期を用いて表すことができる ・ジオストオマー及びメソ化合物について説明できる ・社会における集団の健康と疾病の現状およびその影響のできる。・社会における集団の健康と疾病の現状およびその影響の因を把握し、保健統計について説明できる。 ・公衆衛生の向上の観点から感染症、生活習慣病、職業病についての現状とその予防について説明できる。 ・公衆衛生の向上の観点から感染症、生活習慣病、職業病についての現状とその予防について説明できる。 ・公衆衛生の向上の観点がら感染症、生活習慣病、職業病についての現状とその予防について説明できる。 ・治療での平面から物質を分析するための性質が退れるというでの構造・状態に関する基本的知識と技能と修得できる。 ・物質の構造・状態に関する基本的知識と技能と修得できる。 ・物質の構造・状態に関する基本的知識と技能と発情できる。 ・物質の構造・状態に関する基本的知識と技能と修得できる。 ・物質の構造・状態に関する基本の知識と技能と発情できる。 ・物質の構造・状態に関する基本の知識と技能と考慮を同じないて定性および定量分析をする手法について理解できる。 ・化学物質の性質に基づいて定性および定量分析をする手法について理解できる。 ・化学物質の性質に基づいて定性および定量分析をする手法について理解できる。 ・化学物質の性質に基づいて定性および定量分析をする手法について理解できる。 | 32001 | 細胞分子化学 | 明できる。 ・ DNAの複製・修復様式について概説できる。 ・ 転写反応と翻訳反応の基本原理を説明できる。 ・ 生殖の仕組みや発生から細胞分化・組織化の過程を概説できる。 ・ 外部環境を認識し、内部環境を調節する仕組みについて概説できる。 ・ 免疫のしくみとそれに関わる分子、細胞、組 | 1 | * | | | | | | | Pi- | | 0 | | 0 | | | | 0 | | | | | |
| 栄養素、代謝、食品の安全性と衛生管理などについて記明できる。 ・社会における集団の健康と疾病の現状およびその影響要因を把握し、保健統計について説明できる。 ・公衆衛生の向上の観点から感染症、生活習慣病、職業病についての現状とその予防について説明できる。 32012 分子細胞生物学 I ・核酸、タンパク質、糖質、及び脂質の構造、化学的性質、及び生体での役割を説明できる 1 * 32013 分析化学 I ・医薬品を含む化学物質を分析するための性質およびその背景を理解できる。・物質の構造・状態に関する基本的知識と技能を修得できる。・物質の構造・状態に関する基本的知識と技能を修得できる。・溶液での平衡から物質の溶液での性質が理解できる。・化学物質の性質に基づいて定性および定量分析をする手法について理解できる。・化学物質の性質に基づいて定性および定量分析をする手法について理解できる。・化学物質の検出と定量・応用ができる。・化学物質の検出と定量・応用ができる。・化学物質の検出と定量・応用ができる。 | 32002 | 有機化学 I | - 共鳴構造が書ける ・原子軌道と分子軌道について説明できる ・アルカンを命名することができる ・ラジカル反応について説明できる ・シクロヘキサンのいす型配座が書ける ・絶対配置をRS則を用いて表すことができる ・ジアステレオマー及びメソ化合物について説 | 1 | * | | | | 0 | 0 | 0 | 0 | | | | | | | | | | | | | |
| 化学的性質、及び生体での役割を説明できる 1 * * ◎ 32013 分析化学 I ・医薬品を含む化学物質を分析するための性質およびその背景を理解できる。 ・物質の構造・状態に関する基本的知識と技能を修得できる。 ・溶液での平衡から物質の溶液での性質が理解できる。 ・化学物質の性質に基づいて定性および定量分析をする手法について理解できる。 ・化学物質の検出と定量・応用ができる。 | 32011 | 衛生薬学 I | 栄養素、代謝、食品の安全性と衛生管理などについて説明できる。 ・社会における集団の健康と疾病の現状およびその影響要因を把握し、保健統計について説明できる。 ・公衆衛生の向上の観点から感染症、生活習 慣病、職業病についての現状とその予防につ | 1 | | * | 0 | | | | | | | 0 | | 0 | 0 | | | | | | | 0 | |
| 質およびその背景を理解できる。 ・物質の構造・状態に関する基本的知識と技能を修得できる。 ・溶液での平衡から物質の溶液での性質が理解できる。 ・化学物質の性質に基づいて定性および定量分析をする手法について理解できる。 ・化学物質の検出と定量・応用ができる。 | 32012 | 分子細胞生物学 I | | 1 | | * | | | | | | | | 0 | | | | | | | | | | | |
| | 32013 | 分析化学 I | 質およびその背景を理解できる。 ・物質の構造・状態に関する基本的知識と技能を修得できる。 ・溶液での平衡から物質の溶液での性質が理解できる。 ・化学物質の性質に基づいて定性および定量分析をする予まについて理解できる。 ・化学物質の検出と定量・応用ができる。 | 1 | | * | | 0 | 0 | 0 | 0 | | | | | | | | | | | | | | |

| 学域名 | 医薬保健学域 |
|----------|--------|
| 学類名 | 薬学類 |
| コース(専攻)名 | |

ース(車攻)のディプロマ・ポリシ 、 (UGS及び本学類が掲げる人材養成目標を踏まえ、以下に掲げる学修成果を達成した者に、学士(薬学)の学 位を授与する。 〇学修成果 (1) 倫理・使命・責任を自覚する。 医療人としての使命と責務を理解する。 高い倫理観をもつ。 (2) 薬の専門家としての基本的能力をもつ。 薬物治療に起因する問題を同定・評価し解決する基礎的能力をもつ。 ・臨床現場における実践的な技能と態度を身につける。 ・臨床税場(しん)での美残的な技能で応及でダインリの。 (3) 専門性を活かした応用力をもつ。 ・主体的な自己研鑚により、身につけた専門的知識を実践レベルまで発展させることができる。 ・専門的知識を活用し、生命薬学・医療薬学領域の未解決な問題を抽出することができる。 ・抽出された生命薬学・医療薬学領域の未解決な問題について、解決を目指す応用力をもつ。 (4) 論理的な思考力と表現能力をもつ。 ・国際的な視点で情報の収集や分析を行うことができる。 ・自身の考えを明確にまとめることができる。 他者と論理的に議論することができる。 成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修する 薬学類では学位授与方針に掲げる学修成果を達成するため、以下のとおり教育課程を編成し、実施する。 ・が求められる科目) (1) 体系的・階層的なカリキュラム:薬学・創薬科学について,基本的な学問体系を理解するため,入学後3年前 C-薬学基礎 E-医療薬学 D−衛生 期までは、薬学類・創薬科学類で同一のカリキュラムに基づいて学修を進める。この期間は、共通教育科目の 他に、薬学・創薬科学の基礎となる学問領域の専門教育科目や、薬学に関係する英語科目、生命・職業倫理 薬 薬 薬 に関する科目などを履修する。2年前期には短期留学プログラムを履修できる。 来学と社 学 学研 臨 (2) 進路に応じたカリキュラム:一般入試で選抜された者は、3年前期が終了した時点において2つの学類いず 床 究 薬理 物 質 化学 自然 環境 薬の 薬 製剤 生体 れかへの配属がなされる。3年後期からは薬学類に固有の専門教育科目を学ぶ。実務実習事前学習を履修 숲 命 康 物 し、共用試験に合格した後、実務実習を適して、実学としての医療薬学を学ぶ一方で、危属された各研究室等において卒業研究・卒業演習を履修することにより、基礎研究を基盤とする課題探求能力や問題解決能力を涵 現象の 物質の 防 物理 生み 田 病態 療に のサ 養する。 医薬品を化学による理解 立ちと生体機 分析 的性 性質 出す 基礎 微生 体 役立 運命 の 薬物治療 薬物 変化 一つ情報 と反応 ンス 前期 後期 授業科日名 学生の学習目標 Q1 Ω4 ・ハロアルカン, ヒドロキシアルカン, エーテル の命名を説明できる。 32014 有機化学Ⅱ 求核置換反応における電子の移動を説明で きる ・ハロアルカンの性質と反応性について説明 できる アルコールの性質と反応性について説明で きる ・カルボカチオンの安定性と転位反応につい 0 0 て説明できる SN2, SN1反応について説明できる. E2, E1反応について説明できる. エーテルの反応と合成について説明できる. NMR分光法の原理を概説できる. 衛生薬学Ⅱ ·ヒトの健康に影響を及ぼす化学物質の毒性と その影響を回避する基本的知識を説明でき る。また、生態系や生活環境に影響を及ぼす 自然現象、人為的活動を理解し、汚染物質などの成因、人体影響、汚染防止・除去などの基 0 0 本的知識を説明できる。 波と粒子の二重性について説明できる。 32022 物理化学I ミクロな系で起こる現象について説明できる。 ・原子の電子配置について説明できる。・原子価結合法について説明できる。 0 0 2 分子軌道法について説明できる 分子間相互作用について説明できる。 分子細胞生物学Ⅱ ・解糖系と糖新生系の仕組み, 調節機構, 意 32023 義、及び構成する酵素を説明できる グリコーゲンの合成反応と分解反応の仕組 み及び調節機構を説明できる クエン酸サイクルの仕組みと調節機構を説 明できる ・ミトコンドリアでの電子伝達系の仕組みを説 明できる ・酸化的リン酸化の反応, 及びその過程で ATPが合成される仕組みを説明できる 脂質の消化、吸収と輸送について説明でき 脂肪酸の酸化と合成経路、ケトン体の産生 0 0 経路の仕組みと意義を説明できる 脂肪酸代謝の調節メカニズムについて説明 できる 脂肪酸およびコレステロールの生合成につ ハて説明できる. アミノ酸代謝を説明できる。 尿素サイクルによってアンモニアが代謝され る経路を説明できる ヌクレオチド代謝を説明できる。

| 学域名 | 医薬保健学域 |
|----------|--------|
| 学類名 | 薬学類 |
| コース(専攻)名 | |

| | <mark>ィプロマ・ポリシー(学化</mark> 『太学類が掲げる』は | 立授与方針) 養成目標を踏まえ,以下に掲げる学修成果を達成 | 1.7-李 | (F = # | 生十 (津 | 主学) | の学 | <u> </u> | ス(専 | 攻)0 | ティ | ブロマ | <u>・ボリ</u> | シー | (学位 | <u>[授与</u> | -万針 | .) | | | | | | | | _ |
|--|---|---|--------------|--------|-----------|------------|-----------------|----------|-------------|----------|----------|-------|------------|------------|-------------|--------------|--------------|------------|---------|--------|------------|------------|-------------|--------------|-----|-----|
| 立を授与 | | _{、東、外口 赤と叫る人、外 1〜我川 分丁 沙水木で连収} | .U/_13 | ,c, f | -1 (3 | K-T-/' | ~/ + | | | | | | | | | | | | | | | | | _ | / | |
| 医高2)基健薬臨3)主専抽4)国自療小薬礎康物床専体門出論際身人と発現門的的さ理的のと称第当性が表別を持ちます。 | 使命・責任を自覚する現代を自覚する。 しての使命と責務を理 理観をもつつ。 下門家としての基本的自 臨床に関わる基礎知識 原に関わる実践的な実践的な を における実践的なをも における実践的なをも における実践的なをも における実践的なをも における実践的なをも におけるまな、 にはいました。 にはいまた。 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 | 能力をもつ。 領域の専門的知識を身につける。 を身につける。 を身につける。 を身につける。 能と態度を身につける。 能と態度を身につける。 につけた専門的知識を実践レベルまで発展させるこか 学・医療薬学領域の未解決な問題を抽出することが でもなっ。 分析を行うことができる。 にかできる。 | できる | 0. | | | | | | | | | / | / | / | / | / | / | / | / | | | | | | |
| | <mark>・(カリキュラム編成方)</mark> は学位授与方針に掲げ | 計) ずる学修成果を達成するため、以下のとおり教育課 | 程を経 | 記し. | 宇施 | する。 | | | | | | | | | | | | する。 科目、 | | | | | | | | |
| | | ム:薬学・創薬科学について、基本的な学問体系を | | | | | | | - | | 科目 学基 | | | | | | | D-律 | 5生 | F-序 | 春薬 | 学 | | | F | G |
| 朝までは, 也に, 薬≒ | 薬学類・創薬科学類 [・] 学・創薬科学の基礎とな | で同一のカリキュラムに基づいて学修を進める。こで よる学問領域の専門教育科目や,薬学に関係する | の期間 | は、共 | 通教 | 育科 | 目の | 基 | _ — 薬 | C | | | С | С | C | С | C | 薬学 | ! | | | | _ | _ | — 薬 | - 薬 |
| 2)進路1 れかへの ノ,共用記 こおいて ² 養する。 | こ応じたカリキュラム:- 配属がなされる。3年後 試験に合格した後, 実務 | 年前期には短期留学プログラムを履修できる。 一般入試で選抜された者は、3年前期が終了した時 後期からは薬学類に固有の専門教育科目を学ぶ。3 務実習を通して、実学としての医療薬学を学ぶ一方 履修することにより、基礎研究を基盤とする課題探 | 実務実 で, 配. | 習事で属され | 前学習 た各 | 冒を履 研究3 | 修 室等 | 本事項 | 学と社会 | 1物質の物理的性 | 学物質の分 | 物質の性質 | 分子・医薬品・ | 丨 5自然が生み出す | C― 6生命現象の基礎 | O丨7人体の成り立ちと生 | C- 8生体防御と微生; | D- 1健康 | D— 2 環境 | 作用と体の | - 2薬理・病態・薬 | ― 3薬物治療に役立 | E― 4薬の生体内運命 | E― 5 製剤化のサイエ | 学臨床 | 学研 |
| 時間割 | 子以)のカリヤエノム | | | 前 | 期 | 後 | 期 | | | 質 | | と反応 | 学に | 薬 物 | | 体機能 | 物 | | | 変 化 | 治 | つ情報 | | ンス | | |
| 番号 | 授業科目名 | 学生の学習目標 | 学年 | Q1 | Q2 | Q3 | Q4 | | | | | PU. | よる理解 | | | の調 | | | | | 7京 | ŦIX | | | | |
| 32024 | 分析化学Ⅱ | ・様々な機器分析法について原理を理解でき | | | | | | | | | | | RF. | | | 節 | | | | | | | | | | |
| | | る。 ・物質の構造・状態に関する基本的知識と技能を修得できる。 ・分子状態の解析法が修得できる。 ・各種スペクトルから化学物質の構造決定ができる。 ・化学物質の検出と定量・応用ができる。 | 2 | * | | | | | | 0 | 0 | 0 | | | | | | | | | | | | | | |
| 32025 | 薬理学 I | 生体内情報伝達機構について説明できる。 免疫系に作用する薬物について説明できる。 骨関節系に作用する薬物について説明できる。 。 呼吸器系に作用する薬物について説明できる。 消化器系に作用する薬物について説明できる。 代謝、内分泌系に作用する薬物について説明 できる。 受器系に作用する薬物について説明できる。 | 2 | * | | | | 0 | 0 | | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | | 0 | 0 | | 0 | | | |
| 32026 | 有機化学皿 | ・学生が、アルケン、アルキン、ベンゼンとその 誘導体、アルデヒド、ケトンの命名、性質、反応 性を説明できる。 ・学生が、宋電子付加反応、非局在化したπ電 子系の反応性、ベリ環状反応、芳香族求電子 置換反応における置換基の効果、および芳香 族性について説明できる。 | 2 | * | | | | 0 | | 0 | 0 | 0 | | | | | | | | | | | | | | |
| 32041 | 生命・医療倫理 | 将来、生命に関わる職業人となるために、人の 生命の大切さおよび医療人として患者や医療 提供者の立場、環境を理解し、医療人として身 につけるべき倫理観を説明できる。 | 2 | | | : | * | 0 | 0 | | | | | | | | | | | | 0 | | | | | 0 |
| 32042 | 生薬学 | ・薬学の歴史的な流れと医療において生薬が 果たしてきた役割について説明できる。 ・各地域や伝統医学における代表的な生薬を 挙げることができる。 ・代表的な生薬を外部形態から説明し、区別できる(知識、技能)。 ・生薬の生産、加工、流通を理解する。 ・生薬の同定と品質評価法について概説できる。 | 2 | | | ; | * | 0 | 0 | | 0 | | | 0 | | | | | | | 0 | | | | | |
| 32043 | 物理化学Ⅱ | ・反応速度と反応次数について説明できる。 ・素反応と複合反応(逐次反応競争反応など) という概念を説明できる。 ・反応速度の温度依存性(アレニウス式)を説明できる。 ・酵素反応におけるミカエリス・メンテン機構に ついて説明できる。 | 2 | | | : | * | | | 0 | | | | | 0 | | | | | | | | | | | |

| 学域名 | 医薬保健学域 |
|----------|--------|
| 学類名 | 薬学類 |
| コース(専攻)名 | |

| UGS及で | | : <mark>授与方針)</mark> 養成目標を踏まえ, 以下に掲げる学修成果を達成 | した者 | た, 学士(変 | 薬学)の学 | | ス(専 | 攻)0 | ラディ | プロマ | ゚゚゚゚゚゙゙゙゙゙゙゙゚゚゚゚゚゙゚゚゚゚゚゙゚゚゚゚゚゚゚゚゚゙゚゚゚゚゚゚ | シー | (学位 | 授与 | 方針 |) | | | | | | | | _ |
|---|---|--|-------------|----------------|--------------|-------|---------|------|-----------|-------------|--|---------------|----------|-------------|--------------|-------------|-----|------------|--------------|-----------|-----|---------------|---|------------|
| 医高2)基健薬臨3)主専抽4)国自療・(4)主要・(4)主 | 果 使命・責任を自覚する。 としての使命と責務を理り 里観をもつ。 専門露としての基本薬学能 兵病に関わる基礎知識 意味に超のる実践的な存態 展に起ける実践的な存能 きたがした応り、東 は自己研鑽により、命薬 知識を活用し、生命薬 | は力をもつ。 預域の専門的知識を身につける。 と身につける。 と・評価し解決する基礎的能力をもつ。 とと態度を身につける。 つっけた専門的知識を実践レベルまで発展させることが 領域の未解決な問題について、解決を目指す応 ・もつ。 か析を行うことができる。 とができる。 | べできる | | | | | | / | / | / | / | / | / | | / | / | | | | | | | |
| | <mark>P(カリキュラム編成方針</mark> は学位授与方針に掲げ | け) 『る学修成果を達成するため、以下のとおり教育課 | 程を総 | 扁成し, 実施 | iする。 | 成果 | を上 | げるた | とめに | 履修 | | | | | | するこ 科目、 | | | | | | | | |
| 1) 体系的 | ウ・階層的なカリキュラム | x:薬学・創薬科学について、基本的な学問体系を | 理解す | るため, 入 | 学後3年前 | | 求め B | | 科目 译学基 | | | | | | | D−律 | 生 | E-医 | 療薬 | 学 | | | F | G |
| 也に,薬 | 学・創薬科学の基礎とな | ・同一のカリキュラムに基づいて学修を進める。こ ・る学問領域の専門教育科目や,薬学に関係する な芸術には気に関係する | | | | 基 | 薬 | С | С | С | С | С | С | С | С | 薬学 D | D | Ē | E | E | E | E | 薬 | 薬 学 |
| 2) 進路 いかへの 、共用記 こおいて きする。 | に応じたカリキュラム:一 配属がなされる。3年後 式験に合格した後, 実務: | 年前期には短期留学プログラムを履修できる。 - 般入試で選抜された者は、3年前期が終了した時期からは薬学類に固有の専門教育科目を学ぶ。実習を通して、実学としての医療薬学を学ぶ一方貨修することにより、基礎研究を基盤とする課題探 | 実務実 で, 配 | 習事前学習 属された各 | 習を履修 研究室等 | 本事項 | 学と社会 | 1 物質 | 2化学物質の分 | - 3化学物質の性質・ | 品を化 | 5 自然 | 一 6 生命現象 | の成り立ちと生 | 0― 8生体防御と微生物 | l 1 健 | 2環境 | - 1薬の作用と体の | - 2薬理・病態・薬 | — 3薬物治療に役 | の生体 | EI 5 製剤化のサイエン | 臨 | 学研究 |
| 時間割 | | | | 前期 | 後期 | | | 艮 | | 反応 | 学によ | 物 | | 機能 | 193 | | | | 治 | 情報 | | ス | | |
| 番号 | 授業科目名 | 学生の学習目標 | 学年 | Q1 Q2 | Q3 Q4 | | | | | | る理解 | | | の 調 節 | | | | | <i>,,</i> ,, | 16 | | | | |
| 2064 | 物理化学皿 | ・仕事および熱の概念から熱力学第一法則を 説明できる。 ・エントロピーおよび熱力学第二・第三法則を 説明できる。 ・自由エネルギーの概念を理解し、自由エネル ギー変化から変化の方向を予測できる。 ・溶液の化学ポテンシャルと平衡の関係を説 明できる。 ・電池の起電力と標準自由エネルギー変化の 関係を説明できる。 | 2 | | * | | | 0 | 0 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2044 | 分子細胞生物学皿 | ・核酸の種類と構造、真核細胞の染色体構造について説明できる。 ・DNAが正確に複製され、安定に維持される 仕組みについて説明できる。 ・DNAからRNAへの転写とその後のプロセシ ングの過程について説明できる。 ・転写調節の仕組みについて説明できる。 ・RNAからタンパク質への翻訳過程について 説明できる。 | 2 | | * | | | | | | | | 0 | 0 | | | | | | | | | | |
| 2045 | 薬剤学 I | ・薬物の投与形態と薬物動態素過程(吸収、分布、代謝、排光と薬効発現へのプロセスを包括的に説明できる。 ・薬物動態の素過程について、膜透過。代謝、タンパク結合などを含めたメカニズム、ならびに消化管、肝臓、腎臓など薬物動態的に重要な臓器の構造、機能的特徴に基づいて説明できる。 | 2 | | * | 0 | 0 | | | | | | 0 | 0 | 0 | | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | 0 |
| 2046 | 薬理学Ⅱ | 自律神経系に作用する薬物について説明できる。 中枢神経系に作用する薬物について説明できる。 循環器系に作用する薬物について説明できる。 心液・造血器系に作用する薬物について説明できる。 泌尿器系に作用する薬物について説明できる。 必尿器系に作用する薬物について説明できる。 生殖器系に作用する薬物について説明できる。 | 2 | | * | | | | 0 | | 0 | | | 0 | | | | 0 | 0 | | | | | |
| | 有機化学Ⅳ | ・カルボン酸、カルボン酸誘導体(酸ハロゲン化物、酸無水物、エステル、アミド、ニトリル)、アミン、糖、ヘテロ環化合物、アミノ酸、ペプチド、タンパク質、核酸の命名法、構造、物理・化学的性質、合成法を説明できる。・ベンゼンの置換基、エステルエノラート、アシルアニオン等価体の反応性、合成的利用法を説明できる。 | 2 | | * | | | | | 0 | 0 | | | | | | | | | | | | | |
| 2048 | 病態生理学 | 代表的な疾患名をあげ、各疾患の病態生理に ついて説明できる。 | 2 | | * | | | | | | | | | 0 | | | | | | | | | | |
| | | | | | | • | | | | | | | | | | | | | | | | | | _ |

| 学域名 | 医薬保健学域 |
|----------|--------|
| 学類名 | 薬学類 |
| コース(専攻)名 | |

ース(車攻)のディプロマ・ポリシ 、 (UGS及び本学類が掲げる人材養成目標を踏まえ、以下に掲げる学修成果を達成した者に、学士(薬学)の学 位を授与する。 〇学修成果 (1) 倫理・使命・責任を自覚する。 医療人としての使命と責務を理解する。 高い倫理観をもつ。 薬物治療に起因する問題を同定・評価し解決する基礎的能力をもつ。 ・臨床現場における実践的な技能と態度を身につける。 ・臨床税場(しん)での美残的な技能で応及でダインリの。 (3) 専門性を活かした応用力をもつ。 ・主体的な自己研鑚により、身につけた専門的知識を実践レベルまで発展させることができる。 ・専門的知識を活用し、生命薬学・医療薬学領域の未解決な問題を抽出することができる。 ・抽出された生命薬学・医療薬学領域の未解決な問題について、解決を目指す応用力をもつ。 (4) 論理的な思考力と表現能力をもつ。 ・国際的な視点で情報の収集や分析を行うことができる。 ・自身の考えを明確にまとめることができる。 他者と論理的に議論することができる。 成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修するこ 薬学類では学位授与方針に掲げる学修成果を達成するため、以下のとおり教育課程を編成し、実施する。 ・が求められる科目) (1) 体系的・階層的なカリキュラム:薬学・創薬科学について,基本的な学問体系を理解するため,入学後3年前 C-薬学基礎 D−衛生 E-医療薬学 期までは、薬学類・創薬科学類で同一のカリキュラムに基づいて学修を進める。この期間は、共通教育科目の 他に、薬学・創薬科学の基礎となる学問領域の専門教育科目や、薬学に関係する英語科目、生命・職業倫理 薬 薬 薬 に関する科目などを履修する。2年前期には短期留学プログラムを履修できる。 不学と社 学 学研 臨 (2) 進路に応じたカリキュラム:一般入試で選抜された者は、3年前期が終了した時点において2つの学類いず 床 究 物質の 薬理 化学 自然 生命 生体 健康 環境 薬の 薬物 製剤 れかへの配属がなされる。3年後期からは薬学類に固有の専門教育科目を学ぶ。実務実習事前学習を履修 숲 し、共用試験に合格した後、実務実習を通して、実学としての医療薬学を学ぶ一方で、危属された各研究室等 において卒業研究・卒業演習を履修することにより、基礎研究を基盤とする課題探求能力や問題解決能力を瀝 明泉の 物質の 防 のサ 物理 生み 御と 田 病態 療に 養する。 医薬品を化学による理解 立ちと生体機 的性 基礎 分析 出す 微生 体の 役立 運命 性質と反応 薬物治療 薬物 変化 一つ情報 ンス 前期 後期 授業科日名 学生の学習日標 Q1 Ω4 32061 天然物化学 ・天然物の生合成経路の概要を説明できる。 天然物を化学構造、生合成経路から分類し それらの特徴と代表的な天然物及び薬理作用 を説明できる。 3 0 0 医薬品開発における天然物の役割、天然物 由来医薬品について説明ができる。 白然免疫系と獲得免疫系で働く細胞群 因子 32062 生体防御学 について、作用機構、特徴、相違等を理解し、 免疫系の役割を説明できる。 病原微生物の種類と免疫系との関係につい て概説できる。 3 0 0 0 0 0 免疫記憶とワクチン、免疫實容と自己免疫疾 その他免疫系と疾病との関わりについて 概説できる。 臨床薬物代謝化学 ・薬物の酸化、還元、加水分解、抱合などの 32063 代謝反応を理解し、それに関わる薬物代謝酵 素の特徴を説明できる。 薬物代謝の変動要因(酵素誘導、阻害、年 3 0 0 0 0 0 0 齢、性差、人種差、遺伝子多型、病態、栄養な ど)を説明できる。 32065 薬剤学Ⅱ 薬物体内動態決定因子を列挙し各々の因子 の重要性を理解出来る。 薬物の投与方法に応じた体内動態解析を理 解できる 3 0 0 ・薬物の体内動態を時間的 かつ定量的に説 明できる ・薬物動態の非線形性を説明できる。 薬物治療学 I 心臟血管系、消化器系、呼吸器系、泌尿器 系。 血液・造血器系における代表的な疾患を 挙げ、各疾患の病態生理、適切な治療薬、お よびその使用上の注意について説明できる。 代表的な代謝性疾患、神経・筋疾患、アレル 3 0 0 0 0 -・免疫疾患を挙げ、各疾患の病態生理、 適切な治療薬、およびその使用上の注意につ いて説明できる。

| 学域名 | 医薬保健学域 |
|----------|--------|
| 学類名 | 薬学類 |
| コース(専攻)名 | |

| | -イノロマ・ホリン一(学位 | | and the sales | | - 111 | | 人(専 | 攻)(| ノナイ | ノロマ | (・ホリ | シー | (字位 | 授与 | 力針 |) | | | | | | | | |
|--|---|---|---------------|----------------|--------------|-------|-------|---------|-------------|------------|-----------------|--------------|-----|---------------|--------------|-------------|------------|-------|--------------|--------------|--------|--------------|--------------|---------|
| UGS及i iを授与 | | 養成目標を踏まえ, 以下に掲げる学修成果を達成 | した者 | に, 学士() | 薬学)の学 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 医高)基健薬臨り主専抽り国自他療い薬礎康物床専体門出論際身者とお現門的的さ理的のと記り門がある。 | 使命・責任を自覚務を理理専門を決しての使命と責務を理理専門をとしてのを命じます。 しての生命関係を決定を表示に関わるといるといるといるといるといるといるといるといるといるといるといるといるといる | は力をもつ。 損域の専門的知識を身につける。 ・身につける。 を・評価し解決する基礎的能力をもつ。 とと態度を身につける。 つっ つけた専門的知識を実践レベルまで発展させることが に療薬学領域の未解決な問題を抽出することが できる。 分析を行うことができる。 とができる。 | べできる |)。 | | | / | / | / | / | / | / | / | / | / | / | / | / | / | / | _ | _ | | |
| | <mark>P(カリキュラム編成方針</mark> 『は学位授与方針に掲げ | 「) 『る学修成果を達成するため、以下のとおり教育課 | 課程を練 | 属成し、実施 | iする。 | 成果 | を上 | | めに | 履修 | | | | | | | | | | | | | 〇=学 修する | |
| までは bに, 薬: | 、薬学類・創薬科学類で 学・創薬科学の基礎とな | 、:薬学・創薬科学について、基本的な学問体系を 「同一のカリキュラムに基づいて学修を進める。この る学問領域の専門教育科目や、薬学に関係する | の期間 | は, 共通教 | 育科目の | A — 基 | B 薬 | | 学基 C | | С | С | c | С | С | D-律 薬学 | | E-医 | 療薬 | | E | E | F 薬 | G 一薬 |
| ②)進路 いかへの , 共用記 こおいて をする。 | に応じたカリキュラム:ー)配属がなされる。3年後 試験に合格した後, 実務 | 年前期には短期留学プログラムを履修できる。 - 般入試で選抜された者は、3年前期が終了した時期からは薬学類に固有の専門教育科目を学ぶ。3 実習を通して、実学としての医療薬学を学ぶ一方 優修することにより、基礎研究を基盤とする課題探 | 実務実 で,配 | 習事前学習 属された各 | 習を履修 研究室等 | 本事項 | 学と社会 | 1物質の物理的 | 0― 2化学物質の分析 | - 3化学物質の性質 | ― 4生体分子・医薬品を化学に | D― 5自然が生み出す薬 | 現象 |)ー7人体の成り立ちと生活 |)― 8生体防御と微生物 | l 1 健 | 2 環 | 1薬の作用 | 」― 2薬理・病態・薬物 | E― 3薬物治療に役立つ | の 生 | 」ー 5製剤化のサイエン | 臨 | 薬学研究 |
| 時間割 番号 | 授業科目名 | 学生の学習目標 | 学年 | 前期 Q1 Q2 | 後期 Q3 Q4 | | | 具 | | と反応 | 学による理解 | 物 | | 体機能の調節 | 193 | | | | 物治療 | 情報 | | ス | 1 | |
| 2068 | 分子細胞生物学Ⅳ | ・遺伝子工学技術を概説できる ・遺伝子改変生物)について概説できる ・強生物の種類と振る舞いを概説できる ・タンパク質の翻訳後の成熟過程をて説明できる ・タンパク質の細胞内での分解について説明できる ・細胞間の接着構造、主な細胞接着分子の種類と特徴を説明できる ・主な細胞外マトリックスの種類と特徴を説明できる ・細胞周期とその制御、体細胞と生殖細胞の細胞分裂について説明できる ・細胞形について説明できる ・細胞形について説明できる ・ エ常細胞とがん細胞の違いについて、がん遺伝子とがん抑制遺伝子について説明できる | 3 | * | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 | | | | | | | | | |
| 2081 | 製剤学 | ・各種医薬品の製剤化に必用な溶解性、安定性、粉体、界面活性、粘性などの重要な物理化学的特性について説明できる。 ・各種医薬品剤形の基本的な特性、その安全性を確保するための品質管理などの諸規制、ならびに患者ニーズ・疾病特性に応じた製剤の選択について説明できる。 | 3 | * | | 0 | 0 | 0 | 0 | | | | | | 0 | | | 0 | 0 | | 0 | 0 | | 0 |
| 2067 | 生物有機化学 | ・代表的な生体分子(タンパク質、糖質、脂質) やそれらを構成する基本化合物の構造と機能、さらにそれらの生合成や化学合成法について、有機化学の観点から理解し、説明できる。 ・酵素や補酵素の作用機構を化学反応論の観点から説明できる。 ・生命科学を有機化学の視点から捉えることができる。 | 3 | * | | | | | | 0 | Δ | | | | | | | | | | | | | |
| 2069 | 有機反応化学 | ・基本的な有機反応(置換,付加,脱離,転位)の特徴を概説できる。 ・反応の進行を,エネルギー図を用いて説明できる。 ・有機反応を,電子の動きを示す矢印を用いて説明できる。 ・ベリ環状反応(環化付加反応,電子環状反応)を概説できる。 | 3 | * | | | | | | 0 | | | | | | | | | | | | | | |
| 2082 | 薬物治療学Ⅱ | ・生殖器、ホルモン産生臓器、神経、耳鼻咽喉、眼、皮膚、骨、関節、感染症に関する代表的な疾患を挙げることができ、これら疾患の病態生理、適切な治療薬および使用上の注意について説明できる。 ・悪性腫瘍ならびに長期療養に付随する合併症に対する薬物治療について説明できる。 | 3 | | * | | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | | | | | |
| 2083 | 臨床検査学 | 臨床化学検査が各種疾患の診断や病態解析 等に対してどのように活かされているかを知る と共に、その基礎となる種々の分析法の原理 や得失、応用等について概説できる。 | 3 | | * | | | | 0 | | | | 0 | | 0 | | | 0 | | 0 | | | 0 | |

| 学域名 | 医薬保健学域 |
|----------|--------|
| 学類名 | 薬学類 |
| コース(専攻)名 | |

| | <mark>ィプロマ・ポリシー(学位</mark> バ太学短が掲げる人材 | : <mark>授与方針) </mark> | 1 た 考 | 上 学士(3 | 変学)の学 | | ス(専 | [攻)₫ | ディ | プロマ | ゚゚゚゚゙゙゙゙゙゙゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚ | Jシ ー | (学位 | 授与 | 方針 |) | | | | | | | | _ |
|---|--|---|---------------------|----------------|--------------|------------|----------|------|--------------|---------------|---|-----------------|----------|-----------------|-----------|------------|-----------------|----------|--------|-----------|-------------|-----------------|-------|------------|
| 立を授与 | する。 | 後以口味と聞るた。以下に関ける子呼以木と足以 | .U/2 ⁻ B | nc, 71() | KT/0/T | | | | | | | | | | | | | | | | | _ | | |
| 医高2)基健薬臨3)主専抽4)国自他療い薬礎康物床専体門出論際身者と明治3時間がおります。 | 使命・責任を自覚する。 生しての使命と責務を理 里観をもしての基本薬 専門家としての基本薬 疾病に関助する基礎知る 高援 最におけした。 最におけした。 はいまけいした。 はいまけい。 はいまり、 はいまり、 はいまり、 はいまり、 はいまり、 ないまり、 はい | は力をもつ。 類域の専門的知識を身につける。 ・身につける。 を・評価し解決する基礎的能力をもつ。 とと態度を身につける。 つ。 つけた専門的知識を実践レベルまで発展させることが に療薬学領域の未解決な問題を抽出することが の未解決な問題について、解決を目指す応 がある未解決な問題について、解決を目指す応 がある。 | できる |)。 | | *** | √ | 習成 | 2 (6) | | 2成果 | ** 上 | // | - MIC | 層修修 | するい | | <u>/</u> | 強く対 | रे के ह | th 5 | 科目 、 | O=# | 之 習 |
| | | る学修成果を達成するため、以下のとおり教育課 | 程を網 | 属成し, 実施 | iする。 | 成果 | を上 | | めに | 履修 | | | | | | | | | | | | に履 | | |
| 朗までは | ,薬学類・創薬科学類で | x:薬学・創薬科学について、基本的な学問体系を 門一のカリキュラムに基づいて学修を進める。この | の期間 | は, 共通教 | 育科目の | î | В | C−薬 | 学基 | 礎 | | | | | | D−徫 薬学 | | E-医 | 療薬 | 学 | | | F | G |
| に関する | 科目などを履修する。25 | る学問領域の専門教育科目や,薬学に関係する 年前期には短期留学プログラムを履修できる。 | | | | 基本事 | 薬学と | C | C 2 | C 3 | C 4 | C | C – « | C | C | D — 1 | D | 1 | E 2 | E | E 4 | E 5 | 薬学臨 | 薬学研 |
| れかへの ノ, 共用記 こおいて をする。 | 配属がなされる。3年後 式験に合格した後,実務 | ・般人試で選抜された者は、3年前期が終了した時期からは薬学類に固有の専門教育科目を学ぶ。3 東省を通して、実学としての医療薬学を学ぶ・力量修することにより、基礎研究を基盤とする課題探 | 実務実 で, 配 | 習事前学習 属された各 | 習を履修 研究室等 | 項 | 社会 | 質の | 化学物質の分 | 3化学物質の性質と | を化 | 5自然が生み出す薬 | 6生命現象の基礎 | 成り立ちと生 | 8生体防御と微生物 | | 環 | 薬の作用と体の | 薬理・病態・ | 3薬物治療に役立つ | 薬の生 | 5製剤化のサイエン | 床 | 究 |
| 時間割 番号 | 授業科目名 | 学生の学習目標 | 学年 | 前期 | 後期 | | | Ą | | 反応 | 学による | 物 | | 機能の | נער | | | | 治 | 情報 | | ス | | |
| | 無機薬化学 | ・代表的な典型・遷移元素をあげて、その特徴 | | Q1 Q2 | Q3 Q4 | | | | | | 理 解 | | | 調節 | | | | | | | | Ш | | |
| 2084 | 無破架11.子 | ・ | 3 | | * | | | 0 | | 0 | 0 | | 0 | | | 0 | 0 | | | | | | 0 | |
| 2086 | 東洋医学 | ・漢方医学における診断法、体質や病態の捉え方、治療法について概説できる。 ・生薬の歴史的変遷を記した本草書の解読方法を説明できる。 ・「陰陽五行説」「六病位説」「気血水論」について設明できる。 ・「陰陽五行説」「六病位説」「気血水論」について説明できる。 ・配合生薬の組み合わせによる漢方薬の系統的な分類が説明できる。 ・異物同名品の是非について論議することができる。 | 3 | | * | | | | | | | 0 | | | | | | | 0 | | | | | |
| 2087 | 薬学関係法規 I | 以下の法制度について概説できる 1.薬剤師の倫理規範 2.薬剤師に関連する憲法、民法、刑法、製造物 責任法、個人情報保護法、医療保障制度 3.薬事法、薬剤師法、医師法、歯科医師法、保 健師助産師看護師法 4.健康被害救済制度 5.麻薬及び向精神薬取締法、覚せい剤取締 法、大麻取締法、あへん法 | 3 | | * | 0 | 0 | | | | | 0 | | | | | | | | | | | 0 | 0 |
| 2095 | 薬局薬学 | 地域薬局の役割、薬局薬剤師によるファーマシューティカルケア、薬剤師が遵守すべき倫理 規範、薬剤師の関わる社会保障制度、医薬分 業の意義と仕組み、保険調剤業務の流れとそ の内容、在宅医療・セルフメディケーション・学 校薬剤師など地域における保健・医療につい て説明できる。 | 3 | | * | 0 | 0 | | | | | | | | | 0 | | 0 | 0 | 0 | | 0 | 0 | |
| 2111 | 医療統計学 | ・日本における社会保障制度の中で医療保険制度と国民医療費を説明できる。 ・医薬品経済の視点から医薬品市場について説明できる。 ・母集団と標本の関係、検定の意義について説明できる。 ・相関係数の検定、平均の差の検定(多重比較を含む)、回帰分析、基本的な生存時間解析法について概説できる。 ・臨床研究の結果の主なバラメータを説明し、計算できる。 | 3 | | * | 0 | 0 | | | | | | | | | 0 | | | | 0 | | | | |
| | | | | | | | | | | _ | | _ | | | | | | | | _ | | | | _ |

| 学域名 | 医薬保健学域 |
|----------|--------|
| 学類名 | 薬学類 |
| コース(専攻)名 | |

ース(車攻)のディプロマ・ポリシー(学位授与方翁 、 (UGS及び本学類が掲げる人材養成目標を踏まえ、以下に掲げる学修成果を達成した者に、学士(薬学)の学 位を授与する。 〇学修成果 (1) 倫理・使命・責任を自覚する。 医療人としての使命と責務を理解する。 高い倫理観をもつ。 回り、回答はほうできない。 ・ 基礎から臨床に至る生命薬学領域の専門的知識を身につける。 ・ 健康と疾病に関わる基礎知識を身につける。 薬物治療に起因する問題を同定・評価し解決する基礎的能力をもつ。 ・臨床現場における実践的な技能と態度を身につける。 ・臨床税場(しん)での美残的な技能で応及でダインリの。 (3) 専門性を活かした応用力をもつ。 ・主体的な自己研鑚により、身につけた専門的知識を実践レベルまで発展させることができる。 ・専門的知識を活用し、生命薬学・医療薬学領域の未解決な問題を抽出することができる。 ・抽出された生命薬学・医療薬学領域の未解決な問題について、解決を目指す応用力をもつ。 (4) 論理的な思考力と表現能力をもつ。 ・国際的な視点で情報の収集や分析を行うことができる。 ・自身の考えを明確にまとめることができる。 他者と論理的に議論することができる。 成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修するこ 薬学類では学位授与方針に掲げる学修成果を達成するため、以下のとおり教育課程を編成し、実施する。 ・が求められる科目) (1) 体系的・階層的なカリキュラム:薬学・創薬科学について,基本的な学問体系を理解するため,入学後3年前 C-薬学基礎 E-医療薬学 D−衛生 期までは、薬学類・創薬科学類で同一のカリキュラムに基づいて学修を進める。この期間は、共通教育科目の 他に、薬学・創薬科学の基礎となる学問領域の専門教育科目や、薬学に関係する英語科目、生命・職業倫理 薬 薬 薬 に関する科目などを履修する。2年前期には短期留学プログラムを履修できる。 学と 学 学研 臨 (2) 進路に応じたカリキュラム:一般入試で選抜された者は、3年前期が終了した時点において2つの学類いず 社 床 究 薬理 製剤 物 質 化学 自然 生命 生体 健康 環境 薬の 薬物 れかへの配属がなされる。3年後期からは薬学類に固有の専門教育科目を学ぶ。実務実習事前学習を履修 숲 し、共用試験に合格した後、実務実習を適して、実学としての医療薬学を学ぶ一方で、危属された各研究室等において卒業研究・卒業演習を履修することにより、基礎研究を基盤とする課題探求能力や問題解決能力を涵 明泉の 物質の 防 のサ 物理 生み 田 病態 療に 養する。 医薬品を化学による理解 立ちと生体機 基礎 的性 分析 出す 微生 体の 役立 運命 性質と反応 薬物治療 薬物 変化 一つ情報 ンス 前期 後期 授業科日名 学生の学習日標 O4 Q1 32113 調剤学総論 チーム医療における薬剤師の果たす役割を 説明できる. ・医薬品の特性を理解し、その管理の意義と必 要性を説明できる。 調剤および薬剤管理指導業務における薬剤 0 0 0 0 0 0 0 0 0 3 師の果たす役割を説明できる 医薬品適正使用に必要な薬学的情報を説明 32116 臨床医学入門 以下の点について基本的な内容を理解する。 1 患者アウトカムについて理解する。 2 医師が行う診断・検査の原則を理解する 3 よく見られる症状(Common Symptoms)・疾 患(Common Signs)について理解する。 0 3 0 4 治療の原則をEBM (Evidence-Based Medicine) に基づいて理解する。 5 Case Conferenceについて理解する 臨床栄養学 ・チーム医療におけるNSTの意義を理解し、説 32118 明できる。 ができる。 栄養管理の基礎について理解し、説明でき 3 0 0 0 栄養管理の臨床について理解し、説明でき 32126 医薬品化学 ・医薬品と生体分子との相互作用を化学的な 観点から説明できる。 代表的医薬品を列挙し、その化学構造に基 づく性質について説明できる。 3 0 0 0 0 疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造 と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。 32085 有機機器分析 有機化合物の構造決定に用いられる代表的な 機器分析法(UV/VIS, IR, NMR, MS, 旋光度, ORD, CD)の原理, 測定法, 特徴を説明でき 0 上記の各種機器分析法を用いて, 基本 また 的な有機化合物の構造決定が出来る 32088 創薬科学 新しい医薬品の探索・開発研究では,新しい薬 の手がかりとなる物質(リード化合物)の探索 を最初に学ぶ.薬物動態的にも優れた医薬品 候補化合物を創造する方法を学ぶ. このドラッグデザインを学習し. 具体的な病気に対する 3 Δ 0 Δ 医薬品・ワクチンの開発例を通して最新の創 薬理論に関する理解を深める

| 学域名 | 医薬保健学域 |
|----------|--------|
| 学類名 | 薬学類 |
| コース(専攻)名 | |

ース(車攻)のディプロマ・ポリシ (UGS及び本学類が掲げる人材養成目標を踏まえ、以下に掲げる学修成果を達成した者に、学士(薬学)の学 位を授与する。 〇学修成果 (1) 倫理・使命・責任を自覚する。 医療人としての使命と責務を理解する。 高い倫理観をもつ。 (2) 薬の専門家としての基本的能力をもつ。 薬物治療に起因する問題を同定・評価し解決する基礎的能力をもつ。 ・臨床現場における実践的な技能と態度を身につける。 ・臨床税場(しん)での美残的な技能で応及でダインリの。 (3) 専門性を活かした応用力をもつ。 ・主体的な自己研鑚により、身につけた専門的知識を実践レベルまで発展させることができる。 ・専門的知識を活用し、生命薬学・医療薬学領域の未解決な問題を抽出することができる。 ・抽出された生命薬学・医療薬学領域の未解決な問題について、解決を目指す応用力をもつ。 (4) 論理的な思考力と表現能力をもつ。 ・国際的な視点で情報の収集や分析を行うことができる。 ・自身の考えを明確にまとめることができる。 他者と論理的に議論することができる。 成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修するこ 薬学類では学位授与方針に掲げる学修成果を達成するため、以下のとおり教育課程を編成し、実施する。 ・が求められる科目) (1) 体系的・階層的なカリキュラム:薬学・創薬科学について,基本的な学問体系を理解するため,入学後3年前 C-薬学基礎 E-医療薬学 D−衛生 期までは、薬学類・創薬科学類で同一のカリキュラムに基づいて学修を進める。この期間は、共通教育科目の 他に、薬学・創薬科学の基礎となる学問領域の専門教育科目や、薬学に関係する英語科目、生命・職業倫理 薬 薬 薬 に関する科目などを履修する。2年前期には短期留学プログラムを履修できる。 学と 学 学研 臨 (2) 進路に応じたカリキュラム:一般入試で選抜された者は、3年前期が終了した時点において2つの学類いず 社 床 究 物 質 化学 自然 環境 薬の 薬理 薬 製剤 生体 れかへの配属がなされる。3年後期からは薬学類に固有の専門教育科目を学ぶ。実務実習事前学習を履修 숲 命 康 物 し、共用試験に合格した後、実務実習を適して、実学としての医療薬学を学ぶ一方で、危属された各研究室等において卒業研究・卒業演習を履修することにより、基礎研究を基盤とする課題探求能力や問題解決能力を涵 現象の 物質の 防 物理 生み 田 病態 療に のサ 養する。 医薬品を化学による理解 立ちと生体機 分析 的性 性質 出す 基礎 微生 体 役立 運命 の 薬物治療 質 薬物 変化 一つ情報 と反応 物 ンス 前期 後期 授業科日名 学生の学習目標 Q1 Ω4 32089 分子細胞生物学V ・細胞の構造と機能の解析方法を説明でき 細胞膜の微細構造と物質輸送や情報伝達 の関係を説明できる。 細胞のストレス応答の種類と調節を理解し、 恒常性維持と生体防御との関連を説明でき 0 Δ Δ 組換え遺伝子や組換えタンパク質の解析法 を説明できる。 遺伝子改変生物の解析法を説明できる。 遺伝子工学技術の医療へ応用を説明でき 有機金属化学 有機金属化合物の定義ができる 32090 遷移金属と典型金属の違いを説明できる。 金属特有の結合様式が説明できる。 18電子則が説明できる. 配位子が説明できる。 酸化的付加と還元的脱離が説明できる。 3 0 トランスメタレーションが説明できる。 -脱離と挿入反応が説明できる ・代表的な触媒サイクルが説明できる. ・いくつかの遷移金属触媒を用いた炭素一炭 素結合反応を説明できる 代表的な有害化学物質および薬物の基本的 32091 毒性学 な体内動態について説明できる。 ・毒性評価試験法とその原理を説明できる。 器官・臓器毒性の発現とその機序を説明で きる Δ 0 Δ Δ Δ Δ 環境化学物質の生体に対する影響を説明で きる。 医薬品の副作用・有害作用を予測することを 学ぶ。 32092 薬剤疫学 薬剤師に必要な疫学の知識を身につける。 ・疫学研究手法について説明できる。 ・研究デザインやバイアス、交絡因子などデー タを解釈する上で重要な用語を概説できる。 相対危険度、寄与危険度、オッズ比など結果 を解釈できる。 0 Δ Δ Δ Δ ·EBM の基本概念と実践のプロセスについて 説明できる ・疫学研究にかかる倫理指針について説明で がん治療に不可欠である化学療法による副作 用を最小限に留めることができるようになるた 32093 化学療法学 めに、抗がん剤の最新知識や問題点を理解す 0 3 る、そして、 臨床の場での薬剤師のがん化学 療法への関わり方を学ぶ

| 学域名 | 医薬保健学域 |
|----------|--------|
| 学類名 | 薬学類 |
| コース(専攻)名 | |

ース(車攻)のディプロマ・ポリシー(学位授与方翁 (UGS及び本学類が掲げる人材養成目標を踏まえ、以下に掲げる学修成果を達成した者に、学士(薬学)の学 位を授与する。 〇学修成果 (1) 倫理・使命・責任を自覚する。 医療人としての使命と責務を理解する。 高い倫理観をもつ。 (2) 薬の専門家としての基本的能力をもつ。 薬物治療に起因する問題を同定・評価し解決する基礎的能力をもつ。 臨床現場における実践的な技能と態度を身につける。 ・臨床税場(しん)での美残的な技能で応及でダインリの。 (3) 専門性を活かした応用力をもつ。 ・主体的な自己研鑚により、身につけた専門的知識を実践レベルまで発展させることができる。 ・専門的知識を活用し、生命薬学・医療薬学領域の未解決な問題を抽出することができる。 ・抽出された生命薬学・医療薬学領域の未解決な問題について、解決を目指す応用力をもつ。 (4) 論理的な思考力と表現能力をもつ。 ・国際的な視点で情報の収集や分析を行うことができる。 ・自身の考えを明確にまとめることができる。 他者と論理的に議論することができる。 成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修するこ 薬学類では学位授与方針に掲げる学修成果を達成するため、以下のとおり教育課程を編成し、実施する。 ・が求められる科目) (1) 体系的・階層的なカリキュラム:薬学・創薬科学について,基本的な学問体系を理解するため,入学後3年前 C-薬学基礎 E-医療薬学 D−衛生 期までは、薬学類・創薬科学類で同一のカリキュラムに基づいて学修を進める。この期間は、共通教育科目の 他に、薬学・創薬科学の基礎となる学問領域の専門教育科目や、薬学に関係する英語科目、生命・職業倫理 薬 薬 薬 に関する科目などを履修する。2年前期には短期留学プログラムを履修できる。 学と 学 学研 臨 (2) 進路に応じたカリキュラム:一般入試で選抜された者は、3年前期が終了した時点において2つの学類いず 社 床 究 物 質 化学 自然 環境 薬の 薬理 薬 製剤 生体 れかへの配属がなされる。3年後期からは薬学類に固有の専門教育科目を学ぶ。実務実習事前学習を履修 숲 命 康 物 し、共用試験に合格した後、実務実習を適して、実学としての医療薬学を学ぶ一方で、危属された各研究室等において卒業研究・卒業演習を履修することにより、基礎研究を基盤とする課題探求能力や問題解決能力を涵 現象の 物質の 防 物理 生み 田 病態 療に のサ 養する。 医薬品を化学による理解 立ちと生体機 分析 的性 性質 出す 基礎 微生 体 役立 運命 の 薬物治療 薬物 変化 一つ情報 と反応 ンス 前期 後期 授業科日名 学生の学習目標 Q1 Ω4 32094 医薬品評価学 ・医薬品開発のプロセスとその法的規制につ いて説明できる。 倫理規範およびGCPの変遷の経緯と意義に ついて説明できる 医薬品や治験薬の評価指標について説明で きる 3 Δ Δ Δ 0 Δ 患者および被験者の安全性を確保するため の薬剤師やCRCの役割について説明できる。 医薬品や治験薬を正しく評価するための薬剤 師やCRCの役割について説明できる。 コミュニケーション論 臨床における薬剤師の活動がより効果的に実 32096 施できるために、患者とのコミュニケーションの 取り方や医療チームの一員としての他職種の 0 0 0 方との連携で留意しなければならない点を説 明できる 医薬品情報学 ・医療情報を取扱う際に注意すべき事項につ 32112 ・医療におけるIT技術の利用について説明でき 。 ・医療における情報の標準化について説明で きる。 ・医薬品の開発過程・市販後で得られる情報 の意味・特徴などを説明できる 0 0 医薬品情報の発生と伝達を説明できる 0 0 4 ・医薬品情報と薬事制度, 医薬品開発過程を 医薬品情報の検索と収集法を説明できる 医薬品情報の評価と加工と伝達を説明でき ・医療用医薬品、一般医薬品、要指導薬品に ついて分類と説明ができる。 医薬品安全性学 医薬品安全管理、薬物療法の安全性と有効性 32114 の担保、患者QOLの向上のおける薬剤師の役 割を説明することができる。 医薬品の適正使用(適切な用法・用量、投与 経路、相互作用の把握、予測可能な副作用の 0 0 0 0 0 4 性相は、1941年のかれた。 把握、アレルギー反応や禁忌等の回避、不要 な薬物療法の最小化、医薬品コストの考慮)の 重要性を説明することができる。 32115 看護学入門 健康のとらえ方が人によって違うことを理解し た上で、それを実現するための医療サービス の質の向上、サービスの個別化と看護の関わ 0 0 (りについて説明できる 32117 多職種連携概論 医療機関や地域で、多職種が連携・協力する 一ム医療に積極的に参画するために、チ ム医療における多職種の役割と意義を理解で きる。地域での保健・医療・福祉に積極的に貢 4 0 0 0 0 献できるようになるために、在宅医療、地域保健、福祉、プライマリケア、セルフメディケーショ ンの仕組みと意義を理解できる。

| 学域名 | 医薬保健学域 |
|------------------|--------|
| 学類名 | 薬学類 |
| コース(専攻)名 | |
| | |
| 学類のディプロマ・ポリシー(学位 | 受与方針) |

ース(車攻)のディプロマ・ポリシー(学位授与方翁 KUGS及び本学類が掲げる人材養成目標を踏まえ、以下に掲げる学修成果を達成した者に、学士(薬学)の学 位を授与する。 〇学修成果 (1) 倫理・使命・責任を自覚する。 医療人としての使命と責務を理解する。 高い倫理観をもつ。 (2) 薬の専門家としての基本的能力をもつ。 薬物治療に起因する問題を同定・評価し解決する基礎的能力をもつ。 ・臨床現場における実践的な技能と態度を身につける。 ・臨床税場(しん)での美残的な技能で応及でダインリの。 (3) 専門性を活かした応用力をもつ。 ・主体的な自己研鑚により、身につけた専門的知識を実践レベルまで発展させることができる。 ・専門的知識を活用し、生命薬学・医療薬学領域の未解決な問題を抽出することができる。 ・抽出された生命薬学・医療薬学領域の未解決な問題について、解決を目指す応用力をもつ。 (4) 論理的な思考力と表現能力をもつ。 ・国際的な視点で情報の収集や分析を行うことができる。・自身の考えを明確にまとめることができる。 他者と論理的に議論することができる。 成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修するこ 薬学類では学位授与方針に掲げる学修成果を達成するため、以下のとおり教育課程を編成し、実施する。 ・が求められる科目) (1) 体系的・階層的なカリキュラム:薬学・創薬科学について,基本的な学問体系を理解するため,入学後3年前 C-薬学基礎 E-医療薬学 D−衛生 期までは、薬学類・創薬科学類で同一のカリキュラムに基づいて学修を進める。この期間は、共通教育科目の 他に、薬学・創薬科学の基礎となる学問領域の専門教育科目や、薬学に関係する英語科目、生命・職業倫理 薬 薬 薬 に関する科目などを履修する。2年前期には短期留学プログラムを履修できる。 学と 学 学研 臨 (2) 進路に応じたカリキュラム:一般入試で選抜された者は、3年前期が終了した時点において2つの学類いず 社 床 究 物 質 自然 環 薬の 薬理 薬 製剤 生体 れかへの配属がなされる。3年後期からは薬学類に固有の専門教育科目を学ぶ。実務実習事前学習を履修 숲 学 命 康 境 物 し、共用試験に合格した後、実務実習を適して、実学としての医療薬学を学ぶ一方で、危属された各研究室等において卒業研究・卒業演習を履修することにより、基礎研究を基盤とする課題探求能力や問題解決能力を涵 現象の 物質の 防 物理 生み 田 病態 のサ 養する。 医薬品を化学による理解 立ちと生体機 的性 分析 性質 出す 基礎 微生 体 役立 運命 の 薬 薬物 変化 **外**物治療 一つ情報 と反応 ンス 前期 後期 授業科日名 学生の学習目標 Q1 Ω4 32127 注射薬概論 注射薬による有効性と安全性を薬学的に評価 し、医師・看護師と協力して最適な薬物療法を 実施するために、注射薬の特徴、投与方法、混合調製方法、輸液設計、投与に必要な器 0 0 0 4 具,安全管理の基本的な知識を理解する. 薬学関連法規Ⅱ -3について説明できること 32119 特別な管理を要する医薬品や化学物質とそ の規制 2.医療体制、医療計画、健康増進政策 0 4 Δ Δ Δ Δ 3.医薬品産業とグローバルな医薬品流通の現 状と課題。 健康権と医療 人権及び健康権保障における専門職の役割を 説明できる。人権及び健康権保障の観点か ら、医療制度及び実践の課題を把握し、それ 0 0 0 こついて自分の意見を述べることができる。 32121 臨床心理学 患者の気持ちに寄り添った服薬指導のため の、コミュニケーションの重要性を説明できる。 ・カウンセリングの基本的知識、態度、技法を 0 0 0 踏まえ、傾聴することができる。 薬剤師の業務を理解し、薬剤師のあり方を考 臨床薬学特論 32128 察できる。最新の薬剤師の業務を説明できる。 自らが目指す薬剤師としての役割を自覚し、将 来の医療の担い手としての基本を説明できる 0 有機化学演習 I 8電子則に注意を払い構造式を書ける。 32151 共鳴構造式を使うことができる。 アルカンを命名できる。 立体配座について説明できる。 ラジカルの安定性を説明できる。 0 0 \circ 環のひずみを説明できる。 置換シクロアルカンの立体配座を表現でき 「キラル」という概念が説明できる 不斉炭素のRS表示ができる 求核置換反応における電子の移動を説明で 有機化学演習Ⅱ 32152 ・ハロアルカン, アルコールのの反応性につい て説明できる. カルボカチオンの反応性について説明でき 0 -SN2とSN1反応について説明できる E2反応とE1反応について説明できる。 エーテルの反応と合成について説明できる. 学生は、問題演習を自ら予習し、解答を行う 有機化学演習Ⅲ 32153 ことによって、以下の項目を説明できる。 非局在化したπ電子の性質と反応 ベンゼンの性質と反応 0 0 0 0 ・アルケン、アルキン、カルボニル基の性質と 反応 エノールとエノンの性質と反応

| 学域名 | 医薬保健学域 |
|----------|--------|
| 学類名 | 薬学類 |
| コース(専攻)名 | |

ース(車攻)のディプロマ・ポリシ (UGS及び本学類が掲げる人材養成目標を踏まえ、以下に掲げる学修成果を達成した者に、学士(薬学)の学 位を授与する。 〇学修成果 (1) 倫理・使命・責任を自覚する。 医療人としての使命と責務を理解する。 高い倫理観をもつ。 (2) 薬の専門家としての基本的能力をもつ。 薬物治療に起因する問題を同定・評価し解決する基礎的能力をもつ。 ・臨床現場における実践的な技能と態度を身につける。 ・臨床税場(しん)での美残的な技能で応及でダインリの。 (3) 専門性を活かした応用力をもつ。 ・主体的な自己研鑚により、身につけた専門的知識を実践レベルまで発展させることができる。 ・専門的知識を活用し、生命薬学・医療薬学領域の未解決な問題を抽出することができる。 ・抽出された生命薬学・医療薬学領域の未解決な問題について、解決を目指す応用力をもつ。 (4) 論理的な思考力と表現能力をもつ。 ・国際的な視点で情報の収集や分析を行うことができる。 ・自身の考えを明確にまとめることができる。 他者と論理的に議論することができる。 成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修する 薬学類では学位授与方針に掲げる学修成果を達成するため、以下のとおり教育課程を編成し、実施する。 ・が求められる科目) (1) 体系的・階層的なカリキュラム:薬学・創薬科学について、基本的な学問体系を理解するため、入学後3年前 C-薬学基礎 E-医療薬学 D−衛生 期までは、薬学類・創薬科学類で同一のカリキュラムに基づいて学修を進める。この期間は、共通教育科目の 他に、薬学・創薬科学の基礎となる学問領域の専門教育科目や、薬学に関係する英語科目、生命・職業倫理 薬 薬 薬 に関する科目などを履修する。2年前期には短期留学プログラムを履修できる。 学と 学 学研 臨 (2) 進路に応じたカリキュラム:一般入試で選抜された者は、3年前期が終了した時点において2つの学類いず 社 床 究 薬理 物 質 化学 自然 環境 薬の 薬 製剤 生体 れかへの配属がなされる。3年後期からは薬学類に固有の専門教育科目を学ぶ。実務実習事前学習を履修 숲 命 康 物 し、共用試験に合格した後、実務実習を適して、実学としての医療薬学を学ぶ一方で、危属された各研究室等において卒業研究・卒業演習を履修することにより、基礎研究を基盤とする課題探求能力や問題解決能力を涵 物質の 現象の 防 物理 生み 御と 田 病態 療に のサ 養する。 医薬品を化学による理解 立ちと生体機 的性 分析 性質 出す 基礎 微生 体 役立 運命 の 薬物治療 質 薬物 変化 一つ情報 と反応 物 ス 前期 後期 授業科日名 学生の学習目標 Q1 Ω4 ・カルボン酸、カルボン酸誘導体、アミン、糖類、ヘテロ環化合物、アミノ酸、ペプチド、タン 32154 有機化学演習Ⅳ パク質、核酸の命名法、構造、物理・化学的性 質、合成法に関する問題を正しく理解し解答で 2 0 0 ・ベンゼンの置換基.エステルエノラート.アシ ン等価体の反応性、合成的利用法に 関する問題を正しく理解し解答できる 薬学英語演習 32163 Students learn, recognize, comprehend, retain ind use English in pharmaceutical industry 0 ettings. 個々の患者に最適化された薬物治療を行うた 薬物治療モニタリング 32171 めの、薬物血中濃度測定、薬物動態解析、投 0 0 0 3 0 0 与計画の立案を実践できる。 32172 服薬指導演習 ・患者の基本的権利、自己決定権などについ て具体的に説明できる 患者接遇に際し、配慮しなければならない注 意点を列挙できる。 ・代表的な疾患について、患者に提供すべき 医薬品情報を収集し情報提供ができる。 0 0 0 ・処方せん鑑査の意義とその必要性、薬剤師 と医師の連携の必要性を説明できる。 疑義照会をシミュレートできる。 地域での保健・医療・福祉に積極的に貢献で 32173 プライマリケア演習 きるようになるために、在宅医療、地域保健、 福祉、プライマリケア、セルフメディケーション の仕組みと意義を理解し、地域住民の健康の 0 0 0 0 回復、維持、向上に関わることができるための 基礎能力を身につけることができる。 薬学演習 I 他の研究者の研究のプロセスを知ることによ り 知識や技能を総合的に活用して問題を解決 する事の必要性を知る。 研究課題に関する国内外の研究成果を調査 、読解、評価できる。 課題達成のために解決すべき問題点を抽出 .. 研究計画を立案する。 研究計画に沿って研究を実施しているか説 明できる。 0 4 0 0 がこる。 研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考 密する い、質疑応答ができる。 ・他人の発表を聞いて理解し、質問できる。 研究成果を報告書としてまとめることができ

| 学域名 | 医薬保健学域 |
|----------|--------|
| 学類名 | 薬学類 |
| コース(専攻)名 | |

| | | 「授与方針) 養成目標を踏まえ,以下に掲げる学修成果を達成 | した者 | 作、学士(変 | 薬学)の学 | | 人(| 攻) (), | ノナイ | ノロマ | (* 亦り | シー | (子位 | 扠子 | 力計 | 7 | | | | | | | | - |
|---|---|---|--------------|---|--------------------------------------|----------|------------|--------|-------------|-----|------------------|-------------|--------|---------------|-------------|---|---------|-------|---------------|--------------|--------|-------------|------------|----------|
| つ1) 医高2) 基健薬臨3) 主専抽4) 国自学倫療い薬礎康物床専体門出論際身修理人倫のかと治現門的的さ理的の | 大果 大便・責任を自覚する。 としての使命と責務を理 理観をもつ。 専門家としての基本的能 ら底床に至る生命薬賞施 疾病に関わる基礎知意 療に起因する問題を対る 場における実践的な技能 性を己子が強により、 なが強により、 なが強により、 なが強により、 なが強により、 なが強により、 なが強により、 ながないた。 ないないないないない。 ないないないないない。 ないないないないないないないない。 ないないないないないないないない。 ないないないないないないないないないないないないないないない。 ないないないないないないないないないないないないないないないないないないない | i力をもつ。 負域の専門的知識を身につける。 i 身につける。 i 字 評価し解決する基礎的能力をもつ。 i と態度を身につける。 つ。 つけた専門的知識を実践レベルまで発展させることが 領域の未解決な問題について、解決を目指す応が i もつ。 が析を行うことができる。 とができる。 | 「できる | 5. | | | | / | | / | / | / | / | | | / | / | / | | / | | | | |
| | P(カリキュラム編成方針 『は学位授与方針に掲け | ∤) 『る学修成果を達成するため,以下のとおり教育課 | 程を終 | 編成し, 実施 | iする。 | 成果 | を上 | げるた | めに | 履修 | | | | | | | | | | | | | 〇=学 修する | |
| 明まに,す 2) か,こませい 進へ用に、す 進へ用に、ます とのでは、ままます。 かんだい こうしゅう かんしゅう はんしょう はんしょう はんしょう はんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう はんしょう はんしょ はんしょう はんしょく はんしょ はんしょく はんしょく はんしょく はんしょく はんしょく はんしょく はんしょ はんしょ はんしん はんしん はんしょく はんしん はんしん はんしん はんしん はんしん はんしん はんしん はんし | 、栗学類・創薬科学類で 学・創薬科学の基礎とな 科目などを履修する。2: に応じたカリキュラム: - 配属がなされる。3年後 試験に合格した後、実務 卒業研究・卒業演習を原 | *: 薬学・創業科学について、基本的な学問体系を 「同一のカリキュラムに基づいて学修を進める。こ にる学問領域の専門教育科目や、薬学に関係する 年前期には短期留学プログラムを履修できる。 一般入試で選抜された者は、3年前期が終了した時 期からは薬学類に固有の専門教育科目を学ぶ。 実習を通して、実学としての医療薬学を学ぶ一方 優修することにより、基礎研究を基盤とする課題探 | の期間 対点におまで、配 | は、共通教 4目、生命・ おいて2つの 2習事前学 属された各 | 育科目の 職業倫理 学類いず 習を履修 研究室等 | A — 基本事項 | 求 B― 薬学と社会 | 質の物理的 | 学 C-2化学物質の分 | | 分子・医薬品を | C― 5自然が生み出す | 命現象の基礎 | の成 | C— 8生体防御と微生 | | D— 2 環境 | の作用と体 | 療 E― 2薬理・病態・薬 | 学 E―3薬物治療に役立 | の 生 | EI 5製剤化のサイエ | 臨 | G — 薬学研究 |
| 学類の(1 時間割 番号 | 専攻)のカリキュラム 授業科目名 | 学生の学習目標 | 学年 | | 後期 Q3 Q4 | | | 質 | | と反応 | 化学 | 薬物 | | 工体機能の調 | 物 | | | 変 | 物治療 | つ情報 | | ンス | | |
| 2175 | 薬学演習Ⅱ | ・他の研究者の研究のプロセスを知ることにより 知識や技能を総合的に活用して問題を解決する事の必要性を知る。研究課題に関する国内外の研究成果を調査し、誘解、評価できる。 ・課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、研究計画に沿って研究を実施しているか説明できる。 ・研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察する。 ・研究の果の効果的なプレゼンテーションを行い、質疑応答ができる。 ・他人の発表を聞いて理解し、質問できる。 ・研究成果を報告書としてまとめることができる。 | 5 | * | * | 0 | 0 | | | | 解 | | | 節 | | | | | | | | | | 0 |
| 2176 | 薬学演習皿 | ・他の研究者の研究のプロセスを知ることにより知識や技能を総合的に活用して問題を解決する事の必要性を知る。研究課題に関する国内外の研究成果を調査し、読解、評価できる。・課題達成ために解決すべき問題点を抽出し、研究計画に沿って研究を実施しているか説明できる。・研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察する。・研究成果の効果的なプレゼンテーションを行い、質疑応答ができる。・他人の発表を聞いて理解し、質問できる。・研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。 | 6 | * | * | 0 | 0 | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 |
| 2177 | 症例演習 | 医療チームの一員として、生活習慣病やがんなどの代表的な疾患の薬物療法における問題点を発見し、薬学的考察に基づく解決策を実行するため、以下に関する基本的な知識・技能・態度を修得する・様々な医療情報(カルテ、看護記録、薬歴など)から薬学的考察に必要な情報の収集・様々な医療情報がら抽出された情報を基にした疾患・患者状態の評価および薬物療法による問題点の抽出とその解決策の立案・問題点の抽出とその解決策の立案・方様な医療情報を基に立案した問題解決策を実行するための服薬指導とその内容の記録・フィジカルアセスメントによる患者状態の評価 | 4 | | * | 0 | 0 | | | | | | | | | | | 0 | 0 | | | | 0 | |
| 2181 | 薬物治療演習 | 臨床でよく遭遇する疾病を題材に、薬剤師の 視点から薬物治療を評価・立案する際の基本 的な考え方を身につける 治療法の有効性や安全性、予後などの検証し た臨床試験の論分を読むための基本スキルを 身につけます | 4 | | * | 0 | | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 | | | 0 | |

| 学域名 | 医薬保健学域 |
|----------|--------|
| 学類名 | 薬学類 |
| コース(専攻)名 | |

ース(車攻)のディプロマ・ポリシ : (UGS及び本学類が掲げる人材養成目標を踏まえ, 以下に掲げる学修成果を達成した者に, 学士(薬学)の学 位を授与する。 〇学修成果 (1) 倫理・使命・責任を自覚する。 医療人としての使命と責務を理解する。 高い倫理観をもつ。 (2) 薬の専門家としての基本的能力をもつ。 薬物治療に起因する問題を同定・評価し解決する基礎的能力をもつ。 ・臨床現場における実践的な技能と態度を身につける。 ・臨床税場(しん)での美残的な技能で応及でダインリの。 (3) 専門性を活かした応用力をもつ。 ・主体的な自己研鑚により、身につけた専門的知識を実践レベルまで発展させることができる。 ・専門的知識を活用し、生命薬学・医療薬学領域の未解決な問題を抽出することができる。 ・抽出された生命薬学・医療薬学領域の未解決な問題について、解決を目指す応用力をもつ。 (4) 論理的な思考力と表現能力をもつ。 ・国際的な視点で情報の収集や分析を行うことができる。 ・自身の考えを明確にまとめることができる。 他者と論理的に議論することができる。 成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修するこ 薬学類では学位授与方針に掲げる学修成果を達成するため、以下のとおり教育課程を編成し、実施する。 ・が求められる科目) (1) 体系的・階層的なカリキュラム:薬学・創薬科学について,基本的な学問体系を理解するため,入学後3年前 C-薬学基礎 E-医療薬学 D−衛生 期までは、薬学類・創薬科学類で同一のカリキュラムに基づいて学修を進める。この期間は、共通教育科目の 他に、薬学・創薬科学の基礎となる学問領域の専門教育科目や、薬学に関係する英語科目、生命・職業倫理 薬 薬 薬 に関する科目などを履修する。2年前期には短期留学プログラムを履修できる。 学と 学 学研 臨 (2) 進路に応じたカリキュラム:一般入試で選抜された者は、3年前期が終了した時点において2つの学類いず 社 床 究 物 質 化学 自然 生体 環境 薬の 薬理 薬物 製剤 れかへの配属がなされる。3年後期からは薬学類に固有の専門教育科目を学ぶ。実務実習事前学習を履修 숲 命 康 し、共用試験に合格した後、実務実習を適して、実学としての医療薬学を学ぶ一方で、危属された各研究室等において卒業研究・卒業演習を履修することにより、基礎研究を基盤とする課題探求能力や問題解決能力を涵 現象の 物質の 防 物理 生み 田 病態 療に のサ 養する。 医薬品を化学による理解 立ちと生体機 的性 分析 性質 出す 基礎 微生 体 役立 運命 の 薬物治療 薬物 変化 一つ情報 と反応 ス 前期 後期 授業科日名 学生の学習日標 Q4 32183 総合薬学演習 病院実習、薬局実習で習得した、臨床で必要 な薬剤師の知識、技能、態度を説明し実践で 0 6 1 医薬品を含む化学物質を分析するための 32201 測定法と分析法を学ぶ 化学的性質および物理的性質を理解できる。 2. 物質の構造・状態に関する基本的知識と技 能を修得できる。 3. 溶液での平衡から物質の溶液での性質を 理解し実験できる。 4. 化学物質の性質に基づいて定性および定 量分析をする手法について理解し実験できる。 5. 化学物質の検出と定量・応用実験ができ 0 С 6. 分光光度計の原理を理解し正しい取り扱 ハ方法を説明できる。 7. 反応速度の測定法を理解し活性化エネル の見積もりができる。 8. 放射線計測の原理を理解し環境中の放射 線ついて説明できる。 測定法と分析法を学ぶ 油脂の変質の程度を判定することができる 水環境に関連した試験ができ、水質汚染に関 大気汚染物質や空気環境に関連した試験が でき、衛生化学的良否の判断ができる。 高速液体クロマトグラフィー ー(イオンクロマトグ 0 0 ラフィーを含む)の仕組みを理解し、定性・定量 分析できる ・廃棄物処理に関する知識を習得し,適切な処 理ができる 有機化合物の扱い方を・基本的なガラス器具の使用や取り扱いができ 32204 学ぶ ・分液ロートを用いる後処理,濾過,溶媒留 去、乾燥などの基本操作ができる 融点、沸点測定や化合物の分離精製技術を 習得できる. 2 0 0 0 ・化学的分画法による混合物の分離操作がで きる ·天然資源からの成分抽出の基本操作ができ 化学定性反応や合成反応実験ができる

| 学域名 | 医薬保健学域 |
|----------|--------|
| 学類名 | 薬学類 |
| コース(専攻)名 | |

| | | 授与方針) B成目標を踏まえ,以下に掲げる学修成果を達成 | した者 | に, 学士(変 | 薬学)の学 | | 人(号 | 以)0 | リティ | J U₹ | (*水リ | ンー | (字位 | 授 与 | 力針 |) | | | | | | | | - |
|--|--|--|----------------|----------------|--------------|-----|---------|-----------------|----------|-----------------|-----------------|--------------|------------|----------------|------------|-------------|--------|-------------|--------------|-----------|-------------|---------------|-----|----------|
| つ1) 医高2) 基健薬臨3) 主専抽4) 国自学倫療い薬礎康物床専体門出論際身修理人のかと治現門的さ理的の | 集 使命・責任を自覚する。 としての使命と責務を理解 里観をもつ。 専門なとしての基本等 を を を を を 原に関因する基礎知 を 意に 関いる実践的な技能 生 を 自己研鑽により、身を は 知識を活用し、生命 等学・ と は に は に は に は に り に り に り に り に に り に に り に に り に り | 力をもつ。 域の専門的知識を身につける。 身につける。 ・評価し解決する基礎的能力をもつ。 と態度を身につける。 っしいた専門的知識を実践レベルまで発展させることが、 優潔学領域の未解決な問題を抽出することができる。 ができる。 | 「できる |)。 | | | | | | / | / | / | / | / | | / | / | | / | / | / | | | |
| | <mark>P(カリキュラム編成方針</mark> iは学位授与方針に掲げる |) る学修成果を達成するため,以下のとおり教育課 | 程を締 | 扁成し, 実施 | iする。 | 成果 | を上 | げるた | こめに | 履修 | | | | | | | | | | | れる るため | | | |
| 1) 体系的 | n・階層的なカリキュラム 薬労物・創薬利労物で | :薬学・創薬科学について、基本的な学問体系を | 理解す | るため、入 | 学後3年前 | A | 来の B | られる C-薬 | | | | | | | | D−律 | | E-医 | 療薬 | 学 | | $\overline{}$ | F | G |
| 也に,薬 | 学・創薬科学の基礎となる | 同一のカリキュラムに基づいて学修を進める。こ る学問領域の専門教育科目や,薬学に関係する =前期には短期留学プログラムを履修できる。 | | | | 基 | - 薬 | С | С | С | Ç | С | С | Ç | С | 薬学 D | D | Ē | E | E | E | E | - 薬 | 薬 |
| 2)進路 れかへの 、共用記 こおいて きする。 | に応じたカリキュラム:一:)配属がなされる。3年後! 試験に合格した後, 実務! | ・ 町棚には短期笛子プログラムを履修できる。 般入試で選抜された者は、3年前期が終了した時 明からは薬学類に固有の専門教育科目を学ぶ。 実習を通して、実学としての医療薬学を学ぶ・方 修することにより、基礎研究を基盤とする課題探 学生の学習目標 | 実務実 で, 配 | 習事前学習 属された各 | 習を履修 研究室等 | 本事項 | 学と社会 | 1 物質 | 12化学物質の分 | - 3化学物質の性質と反応 | 品を化学によ | 丨 5自然が生み出す薬物 | ― 6生命現象の基礎 | いの成り立ちと生体機能 | Ⅰ8生体防御と微生物 | 健 | - 2 環境 | - 1薬の作用と体の変 | ― 2薬理・病態・薬物治 | — 3薬物治療に役 | の 生 体 | E-5製剤化のサイエンス | 臨 | 学研究 |
| 番号 | 技术符目在 | 子工の子自口係 | + + | Q1 Q2 | Q3 Q4 | | | | | | 理解 | | | の調節 | | | | | | | | | | ı |
| 2205 | 生物の取り扱いを学ぶ | ・生物系実験の記録を記述し、結果を整理することができる。 ・生物系実験に用いる試薬や器具を正しく取り扱うことができる。 ・動物組織から細胞小器官および細胞構成成分を分離することができる。 ・動物由来培養細胞を用いた基礎的な実験を行うことができる。 ・大陽菌の基本的取り扱いと遺伝子工学の基礎実験を行うことができる グラム染色を実施できる。 ・無菌操作を実施できる。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 3 | * | | | | 0 | 0 | | | | 0 | 0 | 0 | | 0 | | | | | | | |
| 2206 | 生物の取り扱いを学ぶ II | 実験動物に各種の方法で薬物の適用ができる。 麻酔薬・痙攣薬を適用した動物の行動変化を 観察し、その現象を説明できる。 実験動物を解剖し、解剖所見の記述ができる。 摘出臓器・組織に対する薬の作用を定量測定 することができる。 震験動物の行動観察により中枢機能を定量評 価することができる。 | 3 | * | | 0 | 0 | | 0 | | 0 | | | 0 | | | | 0 | 0 | | | | | |
| 2207 | 医療における薬を学ぶ I | ・代表的な薬用植物を外部形態から説明し、区別できる。(知識、技能)・代表的な生薬を鑑別できる。(技能)・代表的な生薬を鑑別できる。(技能)・日本薬局方収載の代表的な生薬植物、動物、藻類、菌類由来)を列挙し、その基原、薬用部位を説明できる。・日本薬局方の生薬総則および生薬試験法について説明できる。・代表的な生薬の生産方法と品質の違いを説明できる・・代表的な生薬の生産方法と品質の違いを説明できる。・・ (表) | 2,3 | * | * | | | | | | | 0 | | | | | | | | | | | | |
| 2208 | 医療における薬を学ぶ II | ・硬度試験、崩壊試験、溶解試験などの一般 試験法を理解する。 ・体内動態規定因子を解析できる。 ・薬物の血中濃度を測定法を理解し、体内動態を速度論的に解析できる。 ・薬物代謝酵素活性の測定法を理解し、薬物相互作用を説明できる。 ・薬物代謝酵素の遺伝子多型を判定できる。 | 3 | * | | | | | | | | | 0 | 0 | | | | 0 | | 0 | 0 | | | |
| 2209 | 医療における薬を学ぶ Ⅲ | 一般調剤、注射薬調剤、製剤に関する基本的 知識を説明でき、処方せんを通じて実践でき る。 | 4 | | * | 0 | 0 | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 | | 0 | 0 | |

| 学域名 | 医薬保健学域 |
|----------|--------|
| 学類名 | 薬学類 |
| コース(専攻)名 | |

ース(車攻)のディプロマ・ポリシ 、 (UGS及び本学類が掲げる人材養成目標を踏まえ、以下に掲げる学修成果を達成した者に、学士(薬学)の学 位を授与する。 〇学修成果 (1) 倫理・使命・責任を自覚する。 医療人としての使命と責務を理解する。 高い倫理観をもつ。 回り、回答はほうできない。 ・ 基礎から臨床に至る生命薬学領域の専門的知識を身につける。 ・ 健康と疾病に関わる基礎知識を身につける。 薬物治療に起因する問題を同定・評価し解決する基礎的能力をもつ。 ・臨床現場における実践的な技能と態度を身につける。 ・臨床税場(しん)での美残的な技能で応及でダインリの。 (3) 専門性を活かした応用力をもつ。 ・主体的な自己研鑚により、身につけた専門的知識を実践レベルまで発展させることができる。 ・専門的知識を活用し、生命薬学・医療薬学領域の未解決な問題を抽出することができる。 ・抽出された生命薬学・医療薬学領域の未解決な問題について、解決を目指す応用力をもつ。 (4) 論理的な思考力と表現能力をもつ。 ・国際的な視点で情報の収集や分析を行うことができる。 ・自身の考えを明確にまとめることができる。 他者と論理的に議論することができる。 成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修するこ 薬学類では学位授与方針に掲げる学修成果を達成するため、以下のとおり教育課程を編成し、実施する。 ・が求められる科目) (1) 体系的・階層的なカリキュラム:薬学・創薬科学について、基本的な学問体系を理解するため、入学後3年前 C-薬学基礎 E-医療薬学 D−衛生 期までは、薬学類・創薬科学類で同一のカリキュラムに基づいて学修を進める。この期間は、共通教育科目の 他に、薬学・創薬科学の基礎となる学問領域の専門教育科目や、薬学に関係する英語科目、生命・職業倫理 薬 薬 薬 に関する科目などを履修する。2年前期には短期留学プログラムを履修できる。 不学と社 学 学研 臨 (2) 進路に応じたカリキュラム:一般入試で選抜された者は、3年前期が終了した時点において2つの学類いず 床 究 薬理 物 質 化学 自然 生命 健康 環境 薬の 薬物 製剤 生体 れかへの配属がなされる。3年後期からは薬学類に固有の専門教育科目を学ぶ。実務実習事前学習を履修 숲 し、共用試験に合格した後、実務実習を適して、実学としての医療薬学を学ぶ一方で、危属された各研究室等において卒業研究・卒業演習を履修することにより、基礎研究を基盤とする課題探求能力や問題解決能力を涵 明泉の 物質の 防 生み 物理 御と 田 病態 療に のサ 養する。 医薬品を化学による理解 立ちと生体機 基礎 的性 分析 性質 出す 微生 体 役立 運命 の 薬物治療 薬物 変化 一つ情報 と反応 ンス 前期 後期 授業科日名 学生の学習目標 Q1 Ω4 32221 宝務宝習 T 医療の担い手が守るべき倫理規範を遵守し、 ふさわしい態度で行動する。 薬歴などの患者情報から処方せんを監査し、 車の調剤業務を適正に実施できる。 特別な注意を要する医薬品を含む各種医薬 5 0 0 0 品の調剤と、適切な管理・取扱いができる。 調剤ミスを防止するために工夫されている事 項を具体的に説明できる。 実務実習Ⅱ 患者および診療録等の情報源、科学的根拠 等から薬物治療方針やその効果や副作用の 発現を評価できる。 ・服薬指導等で収集した患者情報から薬物治 療上の問題点を抽出し、薬学的視点から考察 し、SOAP形式等で適切に記録する。 0 0 0 0 0 安全管理指針を遵守して行動し、施設内の医 薬品の適切な供給と管理を実施する。 32223 実務実習Ⅲ 医師や他の医療スタッフと患者の治療目標 方針、および、治療開始後の変化に関する情 報を共有した上で、適切な服薬指導を実施す 0 0 0 0 0 ・医療スタッフおよび患者のニーズに合った医 薬品情報を評価し提供する。 ・患者・来局者から収集した薬物療法に必要な 実務実習Ⅳ 32225 情報より病状や体調を推測し、服薬指導や患 者教育などの適切に対応できる。 医薬品、健康食品、医療機器等をリスクに応 じ適切に管理し、使用方法や注意点などを来 局者に適切に判りやすく説明できる。 0 0 0 5 ・地域における薬局薬剤師の活動(在宅医療、 学校薬剤師等)を体験する。 チーム医療実習 指導薬剤師の監督のもと、薬剤管理指導業 32224 務や訪問薬剤管理指導業務を遂行できる。 「薬」に関する問題(対患者、対生活者、対社 会など)について課題を抽出し、解決に向けて 取り組み、評価するとともに、課題発見から解 5/6 Δ Δ 0 決策の提案・評価までを発表する。 32251 薬学研究 I 課題研究に取り組むことにより、薬学・医療の 進歩と改善に資するために、研究を遂行する 意欲と科学的根拠に基づいて問題発見・解決 0 0 能力を身につけることができる。 **課題研究に取り組むことにより 薬学・医療の** 32252 薬学研究Ⅱ 進歩と改善に資するために、研究を遂行する 意欲と科学的根拠に基づいて問題発見・解決 能力を身につけることができる。 5 0 0 0

| 学域名 | 医薬保健学域 |
|----------|--------|
| 学類名 | 薬学類 |
| コース(専攻)名 | |

ース(車攻)のディプロマ・ポリシ 、 (UGS及び本学類が掲げる人材養成目標を踏まえ、以下に掲げる学修成果を達成した者に、学士(薬学)の学 位を授与する。 〇学修成果 (1) 倫理・使命・責任を自覚する。 医療人としての使命と責務を理解する。 高い倫理観をもつ。 回り、回答はほうできない。 ・ 基礎から臨床に至る生命薬学領域の専門的知識を身につける。 ・ 健康と疾病に関わる基礎知識を身につける。 薬物治療に起因する問題を同定・評価し解決する基礎的能力をもつ。 ・臨床現場における実践的な技能と態度を身につける。 ・臨床税場(しん)での美残的な技能で応及でダインリの。 (3) 専門性を活かした応用力をもつ。 ・主体的な自己研鑚により、身につけた専門的知識を実践レベルまで発展させることができる。 ・専門的知識を活用し、生命薬学・医療薬学領域の未解決な問題を抽出することができる。 ・抽出された生命薬学・医療薬学領域の未解決な問題について、解決を目指す応用力をもつ。 (4) 論理的な思考力と表現能力をもつ。 ・国際的な視点で情報の収集や分析を行うことができる。・自身の考えを明確にまとめることができる。 他者と論理的に議論することができる。 成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修するこ 薬学類では学位授与方針に掲げる学修成果を達成するため、以下のとおり教育課程を編成し、実施する。 レが求められる科目) (1) 体系的・階層的なカリキュラム:薬学・創薬科学について,基本的な学問体系を理解するため,入学後3年前 C-薬学基礎 E-医療薬学 D−衛生 期までは、薬学類・創薬科学類で同一のカリキュラムに基づいて学修を進める。この期間は、共通教育科目の 他に、薬学・創薬科学の基礎となる学問領域の専門教育科目や、薬学に関係する英語科目、生命・職業倫理 薬 薬 薬 に関する科目などを履修する。2年前期には短期留学プログラムを履修できる。 不学と社 学 学研 臨 (2) 進路に応じたカリキュラム:一般入試で選抜された者は、3年前期が終了した時点において2つの学類いず 床 究 生命 健康 薬理 物 質 化学 自然 生体 環境 薬の 薬物 製剤 れかへの配属がなされる。3年後期からは薬学類に固有の専門教育科目を学ぶ。実務実習事前学習を履修 숲 し、共用試験に合格した後、実務実習を適して、実学としての医療薬学を学ぶ一方で、危属された各研究室等において卒業研究・卒業演習を履修することにより、基礎研究を基盤とする課題探求能力や問題解決能力を涵 明現象の 物質の 防 物理 生み 御と 田 病態 療に のサ 養する。 医薬品を化学による理解 立ちと生体機 基礎 的性 分析 性質 出す 微生 体の 役立 運命 薬物治療 薬物 変化 一つ情報 と反応 ンス 前期 後期 授業科日名 学生の学習目標 O4 Q1 課題研究に取り組むことにより、薬学・医療の 進歩と改善に資するために、研究を遂行する 32253 薬学研究Ⅲ 意欲と科学的根拠に基づいて問題発見・解決 6 0 0 0 能力を身につけることができる。 32260 薬学海外AL実習 I 海外に短期留学する。 ・海外において専門分野にふれることで、薬学 分野への関心や理解を深める。 海外において外国語による国際コミュニケー 0 Δ Δ /ョン能力を身につける。 海外において双方向授業を体験し国際感覚 を身につける。 薬学海外AL実習 Ⅱ ・海外に短期留学する。 32261 海外において専門分野にふれることで、薬学 分野への関心や理解を深める。 海外において外国語による国際コミュニケー 0 Δ Δ ション能力を身につける。 海外において双方向授業を体験し国際感覚 を身につける。 キャリアプラン研修 I ・薬局、医療施設、企業等で研修する。 32280 研修先業務の社会における役割を考える契 ・薬局・医療施設来訪者とのコミュニケーション の重要性を理解する。 Δ OTC薬や健康食品を用いたセルフメディケー ションについて理解を深める。 キャリアプラン研修Ⅱ ・薬局、医療施設、企業等で研修する。 32281 研修先業務の社会における役割を考える契 機とする。 ・薬局・医療施設来訪者とのコミュニケーション の重要性を理解する。 ・OTC薬や健康食品を用いたセルフメディケー 4~6 * Δ ションについて理解を深める。